

## 冷水筒の使い方(注ぎ方・ぬめ方・取り外し方)



■使用前に操作方法をご確認の上、ご使用ください。操作を誤ってご使用になりますとケガ、破損、水漏れなどの原因となります。

【フタをしめる際の注意事項】  
本製品の構造上、注いだ後すぐにフタを締めますと、フタ側面の凹凸部分に液が残ることがあります。その状態で横になると液が垂れ、原因となりますので、必ずぬじ部に残った液体を注ぎきってから横にしてください。

■フタをしめる際は、注ぐ方向にフタのツバを合わせたと、時計回りに1回転(360°)させてください。(図①)フタのツバと注ぎ口がしっかりと重なる様にしてください。(図①-2)  
■注ぐ場合はフタを反時計回りに半回転(180°)させてください。  
(図②)フタのツバとハンドルの位置を合わせて注いでください。(図②-2)フタが外れやすいので半回転以上回転させて注がないでください。  
■注ぎ口・ハンドルを取り外す際は、反時計回りに回転させてください。(図③)

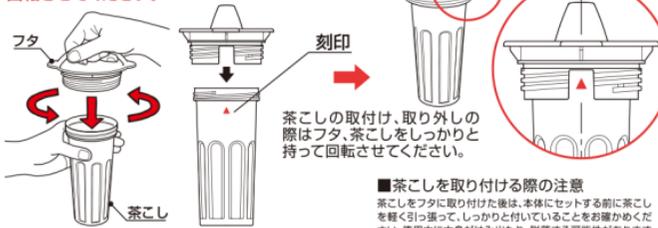
**フタの閉まり具合について**  
■ヨコにご使用になる場合は、フタを閉める際に、水もれが起こらない程度までしっかりと閉めください。

## 熱湯を直接注ぐ場合



## 茶こしの取り付け方

反時計回りに「▲」が見える位置まで回転させてください。



■茶こしを取り付ける際の注意  
茶こしをフタに取り付けた際は、本体にセットする前に茶こしを軽く引っ張って、しっかりと付いていることをお確かめください。使用中に中身がみみり、脱落する可能性があります。

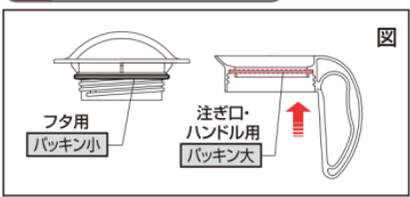
## 使用上の注意

■火のそばに置かないでください。■電子レンジではご使用にならないでください。■本製品を乱暴に扱わないでください。破損の原因となります。また、キズや亀裂の入った製品のご使用は中止してください。■熱湯を入れた場合は常温に冷めるまでフタを閉めないでください。常温に冷める前にフタをするとき空気の膨張により本体が割れて、やけどにつながる危険があります。■やけどなどのケガの原因になるおそれがありますので、熱いものに持ち運びしないでください。また、容器に熱いものを注ぐときは安定したところに置いて、倒れないように十分注意してください。■冷蔵庫内の棚に横置きする場合はフタをしっかり閉めたことを確認してください。フタがしっかりと閉まっていなくて水漏れする場合があります。■冷凍庫に入れないでください。(液体が凍って膨張し、容器の破損の原因になります。)■熱湯を注いだら、冷水等により容器を急冷し冷却しますが、本体が白く曇る場合があります。また、熱と冷から冷やし及び冷蔵庫で冷やしてください。熱い状態のまま冷蔵庫に入れますと、他の食品を腐める原因にもなります。■変形及び、ひび割れの原因となるおそれがありますので、食器洗い乾燥機ではご使用にならないでください。■持ち運びの際は、必ずハンドルまたは本体を持って移動してください。フタを持って持ち運ぶ構造にはなっていません。■ハンドルを持って振り回すと、ハンドル部分が破損するおそれがありますのでおご注意ください。■茶しんや、カビの発生には、市販のキッチン用漂白剤をご使用ください。茶こしにはキッチン用漂白剤を使用しないでください。■しっかりとフタが固定されていることを確認の上ご使用ください。フタのけり落ちを防止する意味で、注ぎ位置を確認の上、ご使用ください。■パックンを取り出すことができず、熱湯消費もできます。■フタ、注ぎ口・ハンドルをお手入れする場合は、パックンのはめ込み位置を必ず図の位置にしてください。はめ込み位置が違ったり水漏れする場合があります。■製品を洗う場合、スポンジや柔らかい布に中性洗剤をつけてご使用ください。

【茶こしに関する使用上の注意】  
■茶こしをフタに取り付ける際は、反時計回りに止まる位置までねじ込んでください。茶こしを斜めにねじ込むと中身がみみり、使用中に脱落する可能性があります。■沸水状態で勢い良く、茶こしを取り付けたままフタを本体にセットしますと、水があふれる場合があります。茶こしを水につける時は、ゆっくりと入れてください。特に熱湯でご使用になる場合は、注意してください。水またはお湯は9分目程度で使用した場面をお勧めします。■茶こしは熱湯でもご使用いただけますが、渋みやアークのないお茶をお楽しみいただく為、水出し用に最適に作られています。甘みのある水出しのお茶をお試しください。熱湯を入れた場合は、常温に冷めるまでフタを閉めないでください。常温に冷める前にフタをするとき、空気の膨張により本体が割れて、やけどにつながる危険性があります。中身が常温に冷めてからフタを閉め切ってください。■茶こしを洗う場合、スポンジや柔らかい布に中性洗剤をつけてご使用ください。■茶こしのフィルターは、突っ込んだり、強い力で洗ったり破れたり、はがれの原因となりますので、やさしくお取り扱いください。■お茶の色が茶こしの網に付着して色が付きやすくなり、使用上問題はありません。■お茶は、長時間、水につけたままにしますと、酸敗や変質の可能性がありやすくなります。飲み残すまでそのままにせず、ほど良く抽出したら、茶こしを取り外し茶殻を捨ててください。茶こしは取り外してフタは密封できる構造です。■ご使用いただく水は、煮沸したり、浄水した水、天然水の場合、塩素が取り除かれて殺菌作用は無いので、48時間以上におおし上がりください。熱湯で出したお茶でも長時間の保存は出来ませんのでご注意ください。■抹茶入のお茶でも長時間の保存、底に抹茶がたまりやすくなり、飲むときに水やゆずり、混ぜてから注いでください。■茶こしを取り付けたままご使用いただく場合、注ぎ終わりに茶こしの中にお茶が残る場合がありますが、一度本体を傾け直すと最後まで注ぎきれます。

## パックンの取り付け位置

### 重要 パックンの取り付け位置



■フタ及び注ぎ口・ハンドルをお手入れする場合や交換する場合には、パックンのはめ込み位置を必ず図の位置にしてください。はめ込み位置が違ったり水漏れする場合があります。■お手入れ時にパックンを紛失しないようご注意ください。

	原料樹脂	耐熱温度	耐冷温度
フタ	ポリプロピレン	100度	-20度
注ぎ口・ハンドル	ポリプロピレン	100度	-20度
本体	A S 樹脂	100度	-30度
パックン	シリコン	140度	-30度
茶こし本体	ポリプロピレン	100度	-20度
茶こしフィルター	ナイロン	100度	-20度

■容量 2.1 L